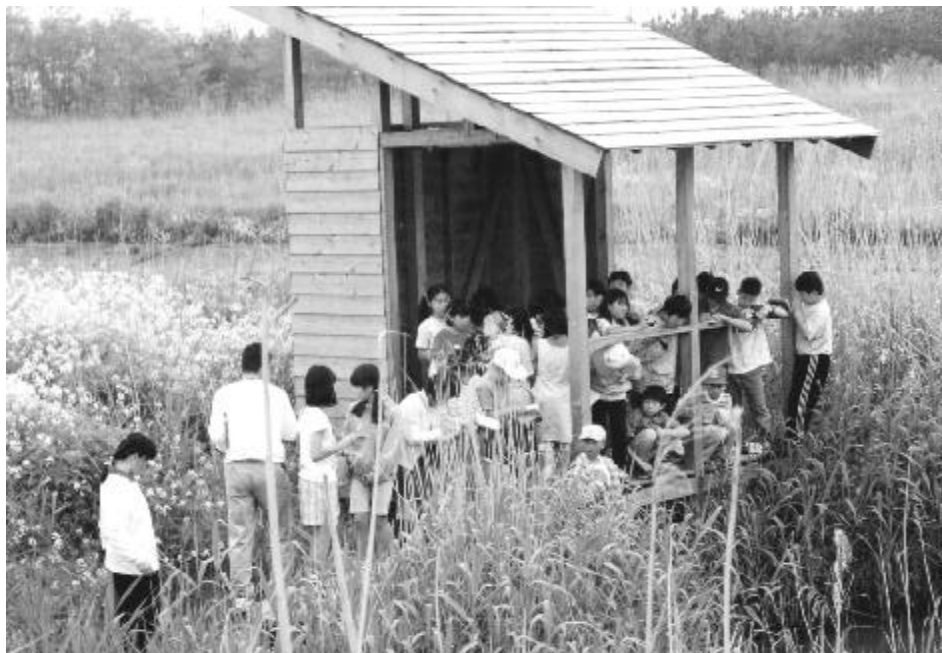


# 河北潟湖沼研究所通信

Vol.6 No.1

## 地域の小中学校が河北潟で環境学習



徳田小学校5,6年生が河北潟干拓地水辺ピオトープを観察(2000年5月19日)

授業や自然観察のために河北潟を訪れる小中学校が増えています。河北潟湖沼研究所では、地域の学校がおこなう環境学習の授業、自然観察会などに積極的に協力しています。最近の事例をご紹介します。

**徳田小学校5,6年生を案内(5月19日)**  
七尾市立徳田小学校の5,6年生がバス4台で、研究所のピオトープ実験施設を訪れました。4グループに分かれてもらい、ピオトープの説明のほか、河北潟の生物について、植物を使った水質浄化の取り組みについて説明をおこないました。

**津幡中学校の校外学習を応援(6月30日)**  
6月30日には津幡中学校1年生約70人が、ピオトープと河北潟の水草について勉強す

るために、河北潟湖沼研究所のピオトープ実験池を訪れました。研究所スタッフにより、河北潟の自然やピオトープの生物について説明を受けました。熱心な生徒も多く、講師へ何度も質問を浴びせていました。

**内灘中学校自然観察会に同行(7月1日)**  
7月1日には内灘中学校の河北潟自然観察会がおこなわれました。この取り組みは、生徒の中から希望者を募り、年間を通じて河北潟の自然や生物と親しむことを目的としておこなわれているもので、今回で2回目になります。今回はバスで、内灘町室にある西部承水路に出かけ、水鳥や魚の観察をおこないました。研究所スタッフ2名が自然解説のために同行しました。

## 中国莫愁湖での日中共同プロジェクトについて 高橋 久(河北瀉湖沼研究所生物委員会)

河北瀉湖沼研究所は、今年3月に中国南京市において、日中共同プロジェクトに調印したことは前号でお知らせしました。今回はその詳報とその後の活動についてお知らせします。

### 共同プロジェクト発足の経過

このプロジェクトが発足するきっかけは、1995年10月に茨城県土浦市でおこなわれた世界湖沼会議での中国科学院南京地理與湖泊研究所の濮培民博士との出会いからです。水生生物を使った水質浄化に取り組んでいる濮先生を訪ねて、96年12月には南京湖泊研究所を表敬訪問しました。その後何度かお互いの訪問を繰り返しながら、共同研究への道を模索してきました。



第1回訪中団(南京湖泊研究所にて)

### 調印式と3者によるプロジェクトの発足

こうした経過の中、濮培民博士により、河北瀉湖沼研究所と南京湖泊研究所および香港理工大学との間での水質浄化に関する国際共同研究プロジェクトをおこなおうという提案がありました。そして、2000年3月2日に中国南京市において、3者間で、今回の国際共同研究プロジェクトの調印式が実現しました。

このプロジェクトは、南京市の莫愁湖に

植物を利用した水質浄化実験施設をつくるもので、これまで濮培民博士が中心になって、同じ中国の太湖や玄武湖で取り組んできた実験システムを基礎とするものです。



3者による調印式の様子

### 第1回現地調査団派遣

今回のプロジェクトは水生生物を使った浄化システムの開発に関わる基礎研究ですが、このシステムはもともと湖に生息する生物の働きを応用するもので、有効な性能を発揮するためには、対象となる湖の生態的特徴を詳しく把握しておく必要があります。今回の研究場所となった莫愁湖に生息する生物群集についてはまだ研究が進んでいません。私たち河北瀉湖沼研究所のメンバーは、生物学の中でもフィールドワークを得意としているメンバーが多いことから、共同研究の中での分担として、莫愁湖の生物群集構造の把握に力を入れることにしました。第1回目の調査団は、とくに野外生態学の研究に携わってきたメンバーにより構成されました。現地調査は8月9日から11日におこないました。この中では湖のプランクトンの動きや溶存酸素の状態についての周日調査と湖岸の生物相の任意調査を実施しました。

## 中国・莫愁湖での調査に参加して 川原奈苗(河北瀉湖沼研究所生物委員会)

莫愁湖(モ-チョ-フ-)は長江流域に大小多数ある湖のひとつです。今回の調査は湖の生態構造を知るひとつの段階として、高温期である真夏の水質の日周変化を観測することです。南京の夏は、風がほとんど無く気温も湿度も金沢より高いため、厳しい暑さだと聞いていましたが、ちょうど台風8号が近づいてきたために滞在中は風があり比較的涼しい毎日でした。

8月8日、23時30分にホテル”金陵大履”に到着。9日、午前中に中国南京地理湖泊研究所を訪問。昼過ぎに調査地に入り、研究所スタッフにボードを出していただいて湖の様子を見回った後、水質の観測地点を定めました。測定調査は、ボードで行いました。莫愁湖は、水深が全体的に2m前後と浅く平たい形状で、水辺は全て護岸で固められており、人工的につくった広い池のような感じがします。莫愁伝説の名所であり、湖の西側からアヒル型の観光用ボートがでており、北側にある2つの小島へ渡れるようになっています。公園には早朝たくさんの方が集まり、散歩や釣り、凧揚げ、数人ずつ集まって太極拳をしたり、また、飼われている鳥が持ち寄られ、公園の木につり下げられています。朝方は飼われている鳥たちが元気に鳴いているので、野鳥の鳴き声はほとんど聞き取れません。習慣となっている一日の始まりはとても和やかな様子です。

湖には10～30cmほどの大きな魚が生息しており、魚をねらうサギも多くみられました。湖岸にはどの側でも釣り人がみられ、その多さには驚きました。湖の北から南東側の水辺では水草が繁茂し、水花生という浮葉植物、ウキクサやトチカガミ、マツモによく似た水生植物が見られました。南西から北側にかけては、水草は全く定着していま



朝の莫愁湖公園で気功をする人々

せんでした。

調査は9日の18時から約6時間おきに各地点4回、水の表層、中層、低層をそれぞれ温度、pH、溶存酸素量、電気伝導度の測定およびプランクトンの採取をおこないました。湖底には相当多くのタニシがいるようで、櫓を数秒間つけただけで何匹もはりついてきます。水草には別の貝類が1種、水生昆虫が数種見られ、タニシも何匹か付着していました。コオイムシがとくに頻繁に見られており、数が多いようです。水草付近ではメダカに似た小さな魚がみられました。湖岸にある建物にはヤモリが多数見られ、水辺にはヒキガエルが2匹いました。

莫愁湖は市街地の中の人工的な環境で、生息している種は少ない様子でしたが、同じ種が数多くいることは特異な環境かもしれません。

はじめての海外で感じたことは、見慣れたものや生活のなかで常識になっていることに微妙な違いが多いことで、それが特に目にとまりました。文化と慣習の違いを知れば知るほど、発想の転換や視野を広げることに繋がるように思います。とてもいい経験になった4泊5日間でした。

## 最近の活動

### 第13回「河北潟」自然観察会がおこなわれました

第13回自然観察会は、初めて夕方からの観察会でした。8月8日(日)午後5:00から、夏の夜の河北潟を探索しました。今回は約20名が参加して、夕方のツバメのねぐら入りの観察をおこないました。その後午後7:30頃より干拓地内においてバーベキューをおこないました。

次回以降の自然観察会は、不定期開催となります。日時は、季節ごとの河北潟の自然や動物が観察しやすい時間に設定します。次回は10月上旬の開催となります。

自然観察会のお知らせはホームページ(アドレス<http://kahoku.soc.or.jp>)でおこなっています。河北潟湖沼研究所金沢事務局(TEL 076-261-6951)でもご案内いたしますので、お問い合わせ下さい。

### 中国・南京での調査が始まりました

前号でもお知らせしたように、河北潟湖沼研究所と中国科学院南京地理與湖泊研究所および香港理工大学との間で、水質浄化に関する国際共同研究プロジェクトが、2000年3月2日より始まっています。

この共同研究プロジェクトは南京市内にある莫愁湖において実験プラントを建設し、水質浄化のための研究を1年間実施するというものです。河北潟湖沼研究所は、主に湖の生態系に関する基礎調査を分担しています。去る8月8日から12日まで第1回目の調査団を派遣しました。調査団には金沢大学名誉教授の大串龍一氏(河北潟湖沼研究所研究会会長)を団長に河北潟湖沼研究所の高橋久研究員、川原奈苗研究員、林文嬾研究員が参加しました。

この調査の結果は、今後、河北潟湖沼研究所ホームページでも紹介していく予定です。また次回以降の通信でも随時お知らせしていく予定です。(関連記事2面)



南京・莫愁湖での調査の様子

### 「環境教育ミーティング中部2000 in いしかわ」が白峰村で開催されます

今年で第3回目となる「環境教育ミーティング中部」が石川県白峰村において、11月10～12日に開催されることになりました。「環境教育ミーティング中部」は、環境教育に関心を持ったり、実際に取り組んでいる人々の「出会いとつながりの場」を提供するもので、これまで開催地周辺の市民の方たちが気軽に参加できる「公開プログラム」や、環境にかかわる様々な展示や体験コーナーが設けられてきました。今回もさらに内容を充実したプログラムが組まれる予定です。現在、多数の人々の参加を募っています。

河北潟湖沼研究所はこの取り組みの問い合わせ窓口と広報・連絡係をおこなっています。詳しくは研究所ホームページを参照いただくかまたは金沢事務局まで。

### < 編集後記 >

編集担当が長期不在のため、今回は研究所金沢事務局が編集を担当しました。今後編集担当は交代する予定です(T)

河北潟湖沼研究所通信 VOL.6 NO.1

2000年8月31日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL:076-261-6951 FAX:076-265-3435